


一般質問通告書

次の通り質問したいので通告します。

平成 27年 11月 17日

山北町議会議長 府川 輝夫 殿

受付番号	第 8 号	質問議員	2番	藤原 浩	
件名	2020年を見据えた無線Wifiの整備で、地方創生の一助とする考えは				
要 旨					
<p>Wi-Fiは無線LANの一種で、世界共通標準規格であり、いまや社会基盤となりつつあります。これから防災、観光、産業など幅広い分野での利活用が大いに進むと考えられます。</p> <p>なかでも情報流通の活性化による、住民福祉の向上と経済効果は大きく期待ができます。観光庁の「平成26年訪日外国人消費動向調査」では、訪日外国人の53%が日本滞在中にあると便利なものとして「無料Wi-Fi」を挙げています。これは「交通手段」「飲食店」を抑えて第1位です。</p> <p>Wi-Fi環境を整備し、防災・観光・産業分野へ利活用し、地方創生の一助とするべく、質問します。</p> <p>1. Wi-Fi環境の整備には、Wifiアクセスポイントの適切な配置が重要です。そのため、まちだけで行うのではなく、地元企業、交通機関、観光協会、商工会、福祉団体、消防団など、地域内の関係者に呼びかけ、協議会等を発足し、整備のための助成と、整備後の維持も考慮した組織づくりと事業化を行い、Wifi環境を整備し、外国人観光客誘致の一助にすべきと思うかどうか。</p> <p>2. Wi-Fiアクセスポイントを町役場、診療所、公園、小中学校などに設置し、周辺情報を収集するための定点カメラ、雨量等を計測するための装置し、災害時にも対応出来る防災情報ステーションとする考えはないか。</p> <p>3. 山北町では、今もシカ・イノシシ等野生動物の被害に苦しんでいる住民が多く、まちでも鳥獣被害対策事業を進めているが、多く課題は残されています。</p> <p>捕獲したシカ・イノシシ等をジビエとして利用する提案が議員からも示されていますが、様々なハードルがあり、まちは前向きな姿勢を示してはいません。</p> <p>ジビエを産業として成り立たせるため、何よりも重要なのが捕獲だと聞きます。</p> <p>ジビエは硬くて特有のニオイがあるというイメージがあります。それは不適切な処理法による誤解なのですが、熟練猟師が減っている今、大きな課題となっています。そこで捕獲の高品質化に大いに役立つのが、Wifiネットワークを用いスマートフォンを利用した、遠隔監視型捕獲システムです。特殊なセンサーで害獣の檻への接近を感知し、利用者にメールを送信し、スマートフォンやパソコンで現場の状況を確認し、絶好のタイミングで檻の扉を落とせます。メールや映像は同時に複数人で共有出来、グループや集落での捕獲も可能であり、ベテラン猟師が初心者と一緒に捕獲することにより、猟師の育成にも繋がられます。</p> <p>まちは、シカ・イノシシの生体捕獲に向け、精査し試験的に導入し検証してはどうか。</p>					